



はくび通信

第
206125
号



縁は異なるものの味なもの 織田家と豊臣家の不思議なご縁

2026年のNHKの大河ドラマ「豊臣兄弟」の制作発表から約1年。兄弟のほか信長や家康など追加のメインキャストが発表され、兄弟の出身地である名古屋も盛り上がりを見せはじめています。農民から天下人となった秀吉とそれを支えた秀長についての史実は諸説あり、どのような展開になるのか楽しみです。

今回は、諸説ある史実の中から、織田家と豊臣兄弟が何かしらの縁で結ばれていたと思われる事柄をお話します。

織田信秀×豊臣兄弟

豊臣兄弟は尾張国愛智郡中村（現・名古屋市中村区）生まれで、太閤素生記によると、秀吉の父とされる弥右衛門は信秀に仕えた足軽、秀長の父とされる築阿弥は信秀の同朋衆とされています。

豊臣兄弟の幼少期とされる文献は少なく、信憑性に欠けるともいわれます。しかし、兄弟の出生地や出生時期と信秀が勝幡城から那古野城へと勢力を拡大した時期を掛け合わせると、縁があっても不思議ではないのかもしれない。

織田信長×豊臣兄弟

秀吉は18歳の時に小姓として信長に仕えました。信長は、能力あるものは出自にかかわらず適所に

配置するという方針でしたので、秀吉が幼少期から培った武家にはない様々な経験は功を奏し、めきめきと頭角を現しました。

信長が勢力を拡大するきっかけとなった桶狭間の戦いの翌年に、秀吉は秀長を自分の家臣にしました。秀長が秀吉を上手くサポートし、戦や築城を成功させたことが、信長の兄弟への信頼を深める要因となったことでしょう。

万松寺×豊臣兄弟

実際に豊臣兄弟が万松寺でなにかをしたという文献は今のところ見つかったではありません。

ただ、信秀が万松寺を建立した1540年に秀長が生まれていたり、名古屋城の石垣を造った清正は兄弟の親類だったり、目には見えない縁があるように思います。

また清正は、名古屋城築城のときに宿舎としていた万松寺で聞いた話から、万松寺の不動明王を身代不動明王と名付けました。信長が信仰し、窮地から救ったとされる不動明王のご加護を兄弟と清正も受けていたのかもしれない。



信秀が攻略し、信長が討たれたとされる本能寺の変の年に廃城となった那古野城。家康の命により跡地に建てられ初代尾張藩主徳川義直と正室春姫の居城となった名古屋城。漢字の違う二つのお城を傍で見守り続けた万松寺は、今も信秀・春姫の菩提所として命日に供養を営んでいます。

信秀忌 限定記念書

3月3日(月)
授与開始



春姫まつり 限定記念書

3月16日(日)
授与開始



*各記念書の仕上がりイメージです

住職の小噺



小噺



悩みと笑顔の相關

昨年11月に久しぶりに仏教勉強会の講師をしました。普段の寺子屋と同じように「実はこんな悩みが…」と相談をいただくと、少しは心のよりどころとなれているのかなと嬉しく思います。また、帰り際にほっこりとした笑顔を浮かべて「気持ち良かった」と、自然にこちらも笑顔になり、嬉しく思います。

そんなことから今回は、悩みと笑顔について、私が感じていることをお話しします。

仏教では、悩みの要因の一つに執着（仏教では「しゅうじやく」と読みます。）があると説いています。あわせて執着は、苦しみの原因と説いています。

自分の中の後悔や不安、他人への怒りや妬みといった負の感情はやがて悩みとなり、囚われすぎると、建設的な考え方ができず、苦しむことにつながるということなのです。

しかし私は、執着にも陰と陽つまり悩み苦しむ『悪い執着』と悩み楽しむ『良い執着』があるのではないかと思っています。良い執着とは、例えば大谷選

手のようにアスリートが夢を実現するために持つ信念に由来するものを指します。その悩みに対し、やるべきことを見極めて実行できたとき、その先には喜びや楽しみを見いだせるのだと思います。ただ、良い執着でもいき過ぎると、身体や心を傷めてしまうので注意が必要です。



ところで「笑いは人の薬」ということわざや医学的研究があるように、笑顔というのは本人だけでなく、周りのひとにも影響を与えます。ですから、悪い執着によって心にゆとりがなくなると、あなたも周りも笑顔が減ってしまいます。反対に良い執着で結果が伴うと、自信や希望につながり、あなたも周りも笑顔が増えるのだと思います。

お釈迦様も仰っていますが、何事も『ほどほど』が大切なのです。私自身、心にゆとりをもつて悩みと上手に付き合い、周りに笑顔をお裾分けできるよう日々精進いたします。

台掌

万松寺住職

大藤 元裕

これからの行事

3/2 (日) 初午会

稲荷の日である旧暦初午の日に、白雪稲荷のご真前にて、五穀豊穰・商売繁盛の祈禱を行います。

3/3 (月) 信秀忌

万松寺を建立した織田信秀公（織田信長公の父）の命日供養を営みます。

3/9 (日) 災害物故者追悼法要

震災などの災害で亡くなった世界中の方を悼み、復興・再生への祈りを込めて、追悼法要を営みます。



3/21 (金) 22 (土) 春彼岸合同法要

彼岸（浄土）と此岸（現世）が近くなるとされる彼岸の時期に、追善供養を営みます。



4/6 (日) 花まつり

降誕会を祝い、花御堂（はなみどう）の誕生仏に甘茶を灌ぐ花まつりを行います。



4/8 (火) 降誕会

お釈迦様が花園でお生まれになった日に、誕生を祝い報恩感謝の法要を営みます。



4/23 (水) 春姫忌

尾張徳川家初代藩主義直公正室春姫の命日供養を営みます。



不動明王 毎月28日 縁日護摩

一部 15時～16時半
二部 19時～20時

●身代わり餅つき18時～●

行事・祈禱・供養のお問合せ・お申込みは
祈禱受処 または
052126210735
にて承ります。（年中無休）

仏教の豆知識



【禅語「知足」】

皆さまは自分の置かれている境遇をどの様に感じていらっしゃるでしょうか？

人は千差万別であり、そのときどきによってさまざまな境遇に置かれます。そんなときに、その境遇を不満と捉えるか、楽しもうとするかによって、日々の過ごし方が変わってきます。

今回は、遺教経に出てくる私たちが自覚するべき事柄とされる八大人覺の教えから「知足」についてお話しします。

■八大人覺

遺教経（仏垂般涅槃略説教誡經）というお釈迦様が亡くなられる日の最後の説法をまとめたといわれる經典に出てくる教えで、少欲・知足・遠離・精進・不念・禪定・智慧・不戯論の八つがあります。

知足の翻訳はさまざまところで紹介されておりますが、簡単にまとめてお話しします。

序文

今の境遇で足りていることを知ることが、欲による苦悩から抜け出し、富樂安隱を得る。

中文

*知る人と知らない人を比較知る人は、どんな境遇にいても楽しみを見い出せ心が豊かである。

知らない人は、良い境遇にいても満足せず心が貧しい。

結語

知らずに五欲に振り回されている人は、知る人に憐れまれている。

汝等比丘
若欲脱諸苦惱 当觀知足
知足之法即是富樂安隱之処
知足之人雖臥地上猶為安樂
不知足者雖處天堂亦不称意
不知足者雖富而貧
知足之人雖貧而富
不知足者常為五欲所牽
為知足者之所憐愍
是名知足

■吾唯知足

京都の龍安寺の茶室前には、手水鉢「知足の蹲踞（つくばい）」があります。中央の水穴を漢字それぞれ「口」に見立てており、時計回りに吾・唯・足・知と読むことができ、仏教の知足の心を図案化したといわれています。



龍安寺 知足の蹲踞

■知足の解釈

茶室「蔵六庵」前にある蹲踞は、水戸黄門で知られる徳川光圀から寄進されたものと伝わっています。

「現状に満足して、それ以上何も望まない、もしくは望んではない」というのが知足ということでしょうか？」と聞かれることがあります。先述述べた八大人覺では、知足の前に「少欲」を説いています。そもそも人間には生まれつきさまざまな欲があり、それらは生きるために必要なものから自らが成長・発展するために必要なものもあります。「少欲」では、すべての欲を否定しているのではなく、欲の出るまま求めていると煩悩が増えて不満となるので、必要以上の欲をむなしく追及しないことが大切だと説いています。つまり、少欲と知足をつなげて解釈すると「過度な欲に支配されず幸せに気がつけば、そこには楽しみや感謝の心が生まれる。また、適度な欲で節度を保てば、煩悩ことなく進むべき未来を考えるきっかけとなる。」といえるのではないのでしょうか？



欲が度を超して、そこにばかり考えが向くと自由を奪われてしまうこともあります。多くを求めず、置かれている境遇を楽しみ、平穏で豊かな気持ちをもって日々を過ごしていきたいものですね。

萬松寺 × JR東海 コラボ御朱印

授与期間 ~3月31日(月)

EXサービス会員様
限定の記念書です

EX旅先予約

予約はこちら

EXサービス
会員でない方

EXサービス会員でない方はスマートEX公式スマホアプリをダウンロードし登録してからご予約をお願いします。

スマートEX
検索

今後の御朱印

限定御朱印

- 信秀忌記念書 3月3日
- 四季の御朱印 春 3月15日
- 春姫まつり記念書 3月16日
- 降誕会御朱印 4月6日
- 春姫忌記念書 4月23日

四季の御朱印 春のイメージです

限定印

- 春彼岸 3月17日 ~ 23日

月詣御朱印

- 3月 「也太奇」
- 4月 「而今」

授与所

万松寺日記

■年末年始の法要・祈禱

万松寺の行事の中でも、特に年末年始は多くの行事がありました。今年は9連休のためか、例年と異なり幅広い日程でご来寺いただきました。

❀ 除夜法会

令和6年12月31日（火）



❀ 正月合同法要

令和7年1月2日（木）
3日（金）



❀ 初詣大般若会

令和7年1月1日（水・祝）
2日（木）



❀ 初稲荷大祭

令和7年1月6日（月）



❀ 昇龍焚き上げ

令和7年1月11日（土）

正月飾り、古い御守・御札などを、読経と浄火により供養する「左義長」とともに、無病息災・家内安全などを祈禱する「特別護摩」をおみくじで「凶」をひいた方の「凶運」が「吉運（強運）」となるよう加持祈禱を行いました。ご参拝の皆さまには、甘酒と焼き芋を振舞いました。



❀ 初不動護摩大祭

令和7年1月28日（火）

身代不動明王のご真前にて、不動明王の初縁日の護摩焚きを行いました。また、多くの皆さまに分身護摩札と叶御守の授与や特別護摩修行を行いました。

❀ 節分会・星祭

令和7年2月2日（日）

節分会を行いました。本堂で、七難即滅・七福即生の祈禱を行いました。あわせて不動堂で、星祭として、本命星と当年星がより吉勢となるように、除災招福の祈禱を行いました。



海苔・金型・福寿銭祈禱

イオンリテール（株）東海カンパニーが販売する「イオンの恵方巻」の焼きのりと「どら焼き」「かすてら」の焼き印金型、福寿銭に護摩祈禱を行いました。

❀ 涅槃会

令和7年2月15日（土）

お釈迦様が沙羅の木の下で亡くなられた日に、遺徳を慕い報恩感謝の法要を営みました。



大人の寺子屋

万松寺住職との
気楽なお茶会

講師

万松寺住職 大藤 元裕

開催日

3月9日 4月6日

時間

10時半～12時

参加費 300円

（お抹茶・お菓子付き）

万松寺の仏教講座

坐禅会

毎週日曜日 9時～10時

写経会

毎月第2土曜日 16時～17時半

写仏会

毎月第1・3土曜日 16時～17時半

仏教勉強会

毎月第4土曜日 16時～17時半

参加費 500円

※行事などにより、日時・会場の
変更や中止となる場合があります。

お申し込み・お問合わせ

WEB

万松寺 学び舎

電話

052126210735

この「はくび通信」ご持参にて
1回無料でご参加いただけます

「仏教講座」展示会

3月7日（金）～24日（月）

写経会（書初め）・写仏会に参加された
皆さまの作品を展示します

